

2022年の米国株見通し



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 2022年も米国株は上昇持続へ

2022年の米国株は良好な企業業績を背景に上昇基調が持続すると想定しています。ただし、インフレ率が高止まりする場面ではFRB（米連邦準備制度理事会）が利上げとQT（量的引き締め）を同時に行なうことも想定され、一時的に変動率が高まる可能性がある点には留意する必要があります。

もっとも、米金融市場を取り巻く環境は悪くありません。FRBのタカ派的な政策運営による先々の景気減速への懸念から、米長期金利は上昇しづらいとみられ、米実質金利のマイナス状態は長期化する可能性が高く、リスク資産に資金が向かいやすい構図は変わらないと想定されます。残高が高水準に積み上がっている米MMF（マネー・マーケット・ファンド）は、相場が不安定化する局面で、米国株の下値を支える防波堤的な役割を果たすことが期待されることも支援材料といえるでしょう（右上図）。

ポイント② NASDAQ100に投資妙味

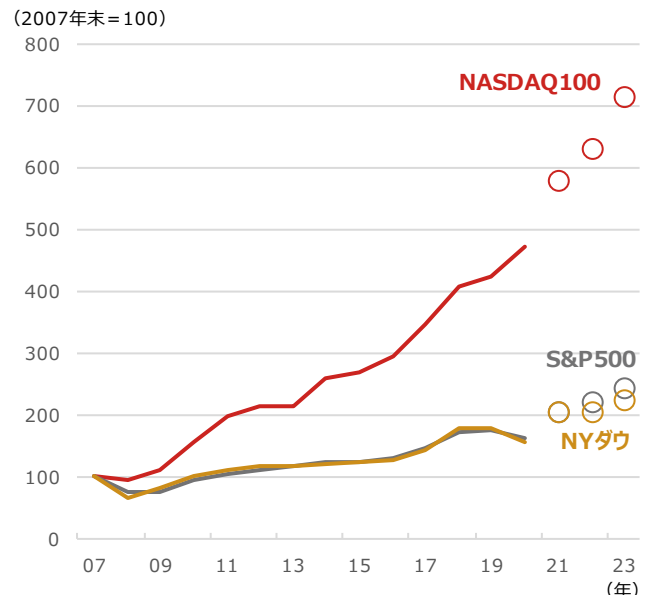
今後、米国株は金融相場から業績相場へ移行していくとみられます。2022年の米国は「金融」と「財政」という2つの追い風要因が薄れていくことから、これまでよりも不確実性が高い状態になると想定されます。このため、外部環境の影響に左右されにくく、独自で需要を創出できる競争力の高い企業群に投資するのが有効と考えます。米主要株価指数をみると、アップルやマイクロソフトなど成長株で構成されるNASDAQ100は、世界経済がマイナス成長に陥った2009年や2020年でも利益を拡大させており、今後も高い成長が見込まれています（右下図）。NASDAQ100は不確実性の高い環境に強い株価指数といえ、投資妙味があると考えられます。

米実質金利と米MMF残高



期間：（米実質金利）2006年1月6日～2021年12月21日、週次
（米MMF残高）2006年1月6日～2021年12月17日、週次
・米実質金利：Bloombergジェネリック米10年物価連動国債利回り（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米主要株価指数別EPS（一株当たり利益）



期間：2007年末～2023年末、年次
・2007年末～2020年末は12ヵ月先予想EPS
・○印は2021年～2023年の年末時点の予想EPS
・予想EPSはBloomberg予想（2021年12月21日時点）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

個別銘柄の記載は、指数の構成銘柄の紹介を目的としており、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。